命短し恋せよフユシャク

著者 一日一種（イラストレーター・漫画家）

冬に活動する蛾「フユシャク(冬尺)」とは？

冬に成虫が活動するシャクガ科の仲間の総称で、日本では 35 種ほどが知られています。

1年で生きものの気配が最も薄い時間帯「冬の夜」。
そんな中、ヒラヒラと飛んでいるフユシャクを見つけたときは、ハッとさせられ感動を覚えます。

※昼間に活動しているフユシャクもいます

寒い中、活動できるヒミツ

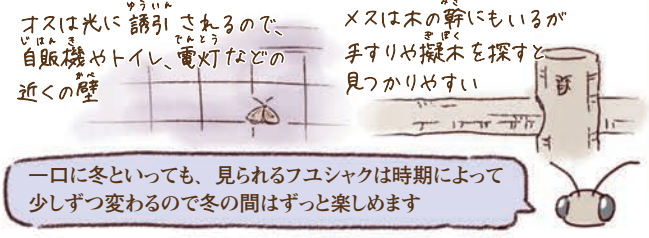
【ポイント①】
口が退化しており、成虫は幼虫時代に蓄えた栄養で生きる。
樹液や花の蜜を吸うことがないので、体が凍ることもない。

【ポイント②】
メスが翅が小さかったり、全く無かったりと退化している。
これにより、翅からの放熱を抑えられると考えられる。
冬の夜は天敵が少なく、飛んで逃げる必要がない。

探してみよう

樹木がそこそこ豊かであれば、身近な自然公園でも普通に見られます。最初は見つけやすいオスを探すのが一般的な探し方です。

オスもメスも人工物にいると目立つ（見つけやすい）



一口に冬といっても、見られるフユシャクは時期によって少しずつ変わるので冬の間はずっと楽しめます

このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております（商用利用不可）。
https://www.nacsj.or.jp/category/magazine/ から PDF ファイルがダウンロードできます。自然観察にご活用ください。